

自己評価結果公表シート

後藤学園

1. 園の教育目標

- あかるく元気で素直な子ども
- ゆたかな心でやさしい子ども
- みんなと仲良く遊べる子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師が客観的に自園を見つめ、クラス運営、教育内容の改善に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしがい編成している。	年度始めに学園研修にて幼稚園教育要領を基にした園の教育理念・教育方針について理事長講和・園長講話を行い、職員の意識の統一を図る。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	毎年年間指導計画に加筆、訂正を行い、子どもの実態に即した内容にするように努めている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	教師は、日々の記録とともに教師間の情報交換を密にし、日案の作成や、支援等に反映させている。
月ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスで月や週の目標を定め、月ごとに子どもの様子をもとに達成状況を報告し合うようにしている。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	集団の中にも個々を認め、全職員が全園児の情報を共有することにより、より個人理解や良さを知る。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようにしているがまだ改善の余地がある。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	体験の中で、こまめな言葉掛けをし目に訴える装飾などによって自然に身につくように促している。
全職員が年に1回以上公開保育を行う。	各教職員が公開保育を行い、お互いの保育を見合うことによって、よりよい保育環境を指摘し合うようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に情報提供をする。	各種研修会や研究会に参加し、学んだことを報告し合い資質の向上を図る。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	学期ごとの自己点検・自己評価によって、各自が客観的に自らの保育を見直し反省・改善などを行う様子が見られた。 子どもを認める、個により添った保育、目指す保育などがより明確になった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
環境設定	子どもの主体的な遊びのためには、表に出ない準備・見通しが必要となる。 適確な援助のために日々、遊びの状況の情報共有、準備等の努力が必要となる。
自己点検、自己評価	各教職員は客観的に自己や自園を見直し、子どもの成長理解やより良い教師像のために課題を見出し、資質向上に取り組むようにしている。
指導計画の編成	教育要領・園の教育方針・子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。

6・学校関係者評価委員会の意見

学園研修や、日々の教職員の団結力で保護者、地域に根付く後藤学園に成った事を非常に嬉しく思うと同時に益々の発展を期待しています。とのご意見を頂きました。

自己評価結果公表シート

あゆみ・あゆみ第二幼稚園

1. 園の教育目標

- あかるく元気で素直な子ども
- ゆたかな心でやさしい子ども
- みんなと仲良く遊べる子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師が客観的に自園を見つめ、クラス運営、教育内容の改善に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	年度始めに学園研修にて園の教育理念・教育方針について理事長講話・園長講話を行い、職員の意識の統一を図る。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	学園研修にて、毎年年間指導計画の確認を行い、子どもの実態に即した内容にするように努めている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々、子どもの実態を把握すると共に記録や教師間の情報交換を密にし、月・週・日案の作成や支援等に反映させている。
月ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスで月や週の目標を定め、月ごとに子どもの様子をもとに達成状況を報告し合うようにしている。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	集団の中でも一人ひとりを認め、全職員が全園児の情報を共有することにより、より個人理解を深める様努めている。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子どもが自ら発展できる環境作りに心がけ取り組んでいますが、個々の成長に適しているかを考えると、まだ改善の余地がある。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	日常の中で継続し、くり返し言葉掛けをし、認めたりする事で、自然に身に付くよう促している。
全職員が年に1回以上公開保育を行う。	各教職員が公開保育を行い、お互いの保育を見合うことで、よりよい保育環境・人的環境をも指摘し合うようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に情報提供をする。	自ら目的意識を持ち、各種の研修会や研究会に参加し学んだ事を報告し合い、教師としての自覚、資質の向上を図る。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	学期ごとの自己点検・年ごとの自己評価によって、各自が客観的に自らの保育を見直し、改善をする姿が見られた。 一人ひとりにより添った保育、目標とする保育が明確になった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
環境設定	子どもが主体的に遊べる為には、これまでの環境設定を再確認すると共に、的確な見通しが必要となる。 遊びの理念や援助の為に日々、情報の共有と準備等の努力が必要となる。
自己点検、自己評価	各教職員は客観的に自己や自園を見直し、子どもの成長理解や自分の課題を見出し、資質向上の為にも取り組むようにしている。
指導計画の編成	教育要領・園の教育方針・子どもの実態に即した最善の指導計画の編成に取り組んでいく。

6. 学校関係者評価委員会の意見

--